

津和野町立安野光雅美術館コレクション
安野先生のふしぎな学校



■展覧会の趣旨

画家・安野光雅（1926 - 2020）は、島根県^{かのあしぐん}鹿足郡津和野町に生まれ、自然あふれる土地でさまざまな空想をめぐらせ、絵描きになることを夢見て少年時代を過ごしました。1950年に上京、小学校で図画工作を教えるかたわら、本の装丁や挿絵などを手がけます。1961年に教員を経て画家として独立し、1968年『ふしぎなえ』で絵本作家デビュー。その後は画家、絵本作家、装丁家、また執筆活動など、幅広い分野で活躍を続けました。

独自の世界観で美しく繊細に描かれた作品は国内外で人気を得て、「児童文学のノーベル賞」ともいわれる国際アンデルセン賞画家賞をはじめ、数々の賞を受賞し高く評価されました。こうした作品の原点には、津和野で育まれた幼い頃の体験や教員時代に試行錯誤した経験が投影されています。

本展では創作の出発点である教員時代に着目し、学校の授業科目に見立てた構成により、絵本原画や装丁を手掛けた書籍、劇団『こまつ座』のポスターなど、多彩なジャンルの作品を紹介します。ユーモアとふしぎにあふれた安野光雅の世界は、幅広い世代に親しみやすく、ご家族で楽しめる展覧会です。

■おもな展示作品 ※都合により出品作品が異なる場合がございます。御了承ください。

絵本原画をはじめ、書籍、ポスター、書など約 150 点

■安野光雅（あんの・みつまさ／1926～2020）

島根県津和野町生まれ。13歳で津和野を離れ山口県・宇部へ移る。1948年、代用教員として小学校に勤め、1950年3月上京、正式に小学校の美術教師となる。教員のかたわら本の装丁など

を手がけ、1961 年画家として独立。1968 年『ふしぎなえ』で絵本界にデビュー。その後、その好奇心と想像力の豊かさと独創性に富んだ作品を次々と発表し、淡い色調でやさしい雰囲気漂う風景など、亡くなるまで様々な作品を数多く制作した。代表作に『ふしぎなえ』、『ABC の本—へそまがりのアルファベット—』、『天動説の絵本—てんがうごいていたころのはなし—』、『旅の絵本』、『繪本 平家物語』、『繪本 三國志』や司馬遼太郎の紀行『街道をゆく』の挿画などがある。多くの業績に対し、ブルックリン美術館賞（アメリカ）、ケイト・グリーナウェイ賞特別賞（イギリス）、BIB ゴールデンアップル賞（チェコスロバキア）、国際アンデルセン賞画家賞、紫綬褒章、第 56 回菊池寛賞など国内外の数々の賞を受賞。勲四等旭日小綬章、文化功労者、津和野町特別功労表彰者（名誉町民）。2001 年 3 月 20 日、75 歳の誕生日に、故郷津和野の駅前に「安野光雅美術館」が開館した。2020 年 12 月 24 日に逝去。

■ 展覧会の見どころ

① 安野光雅の絵本原画が鑑賞できる貴重な機会

安野光雅の故郷である津和野町立安野光雅美術館（島根県）のコレクションより、絵本原画を中心に作品約 150 点を紹介します。画家はじめ絵本作家、デザイナー、装丁家としても活躍した安野光雅の仕事を、まとめて鑑賞できる貴重な機会です。

② 高知の鏡川を描いたスケッチ画を展示

世界各国や国内各地を訪れ、街並みや風景をスケッチした安野光雅。高知県も訪れており、本展では高知市の鏡川を描いた水彩画も特別に展示します。

③ 安野光雅の多岐にわたる活動を紹介

画家、絵本作家、装丁家、デザイナーなど、半世紀以上にわたり多彩な活動が続けた安野光雅。交友のあった井上ひさしが旗揚げした「劇団こまつ座」のポスターデザインをはじめ、アンデルセン童話集や、女優・高峰秀子、詩人・谷川俊太郎、解剖学者・養老孟司などの書籍の装丁本も展示します。

④ 安野光雅の世界を体感するコーナー展示

作品をより深く楽しみ豊かな時間を過ごしていただけるよう、安野光雅の世界観を体験できるコーナーや絵本を楽しむスペースを設けます。

⑤ 幅広い世代が楽しめる展覧会

1968 年に『ふしぎなえ』で絵本作家としてデビュー以来、半世紀以上経った今もなお、安野光雅が手がけた多くの絵本が読み継がれています。本展では子ども向けの展覧会ガイド配布をはじめ、ギャラリートーク（作品解説）や託児サービス、ベビーフレンドリーアワーを実施します。家族連れはもちろん、幅広い年齢層の方々が楽しめる機会を提供します。

■ 出品内容

本展は、学校の科目にみたてた 10 の章立てで構成します。

プロローグ

ユニークな発想から生まれた初期作『ABC の本—へそまがりのアルファベット—』『あいうえおの本』を導入、安野先生のふしぎな学校が開校します。

朝の会

故郷・津和野を描いた風景画をとおして、安野先生が幼少期に培った着想の源を紹介します。

こくご

安野先生の絵本に登場する物語は、古くから伝わる世界の名作や日本の昔ばなしに独自のユーモアを効かせて表現されたものと、自身の空想世界が繰り広げられるものがあります。ここでは、『かげぼうし』（1976 年）や『ちくま日本文学全集』（1993 年）の装画など、安野先生の空想の世界に迫ります。



『かげぼうし』より 1976 年

さんすう

数や数学をテーマにした安野先生の絵本には、くらしの中でものごとを順序立てて考えてみたり、その法則やきまりを自分で導き発見する喜びをつかみ取ってほしいという願いが込められています。『かぞえてみよう』（1975 年）や『はじめてであう すうがくの絵本』（1982 年）等に描かれたかわいいイラストも楽しみながら、そこに何が描かれているかじっくり考えてみましょう。



「7」『かぞえてみよう』より 1975 年

ずこう・おんがく

〈ずこう〉では、点や線で実験的に描いた写生や、森の風景に安野先生の遊び心をちりばめて表現した『もりのえほん』（1977 年）、〈おんがく〉では、安野先生の歌の世界を紹介します。安野先生は制作しているとき、少年時代や教員時代を思い出しながら描いていたのかもしれません。



『もりのえほん』より 1977 年

しゃかい

安野先生の描く風景には、美しい景色のみならず、人々のくらしぶりまでも余すところなく描かれています。日本をはじめ、ヨーロッパ・アメリカ・アジア各国にスケッチ旅行に出かけました。ここでは世界の暮らしぶりを詰め込んだ『蚤の市』（1983 年）のほか、高知県民の皆さんにとっても馴染み深い「鏡川」を描いた風景画も特別に紹介します。



『蚤の市』より 1983 年

りか

ここでは地球のふしぎを描いた『天動説の絵本—てんがうごいていたころのはなし—』（1979 年）や、科学月刊誌『数理科学』の表紙絵のために描かれた、理科にまつわる作品を紹介します。法則や公式など新しい物事をそのまま覚えるのではなく、分からない事を予測したり空想して考えてみたりすることで、その物事の仕組みや成り立ちも分かって欲しいという安野先生の願いが込められています。



『天動説の絵本—てんがうごいていたころのはなし—』より 1979 年

えいご

安野先生は英語力を、『イソップ寓話』や『ギリシャ神話』などのよく知られた物語の英文と翻訳を読み比べながら鍛え上げました。そうすることで外国の児童文学にも詳しくなり、そこに安野先生のユーモアを加えた新たな絵本を生み出しました。ここでは、『きつねがひろったイソップものがたり』（1987 年）等、原作にユーモアを加えた作品と、海外の人々も安野先生のユーモアに親しむことのできる英語版の絵本を展示します。



「オオカミとサギ」『きつねがひろったイソップものがたり 1』より 1987 年

終わりの会

これまでの科目で紹介した、ふしぎな空想の世界や興味がわく絵本とは異なり、人生の教訓を教えてくれる絵本として『おおきなもののすきなおうさま』（1976 年）を紹介します。

自由研究

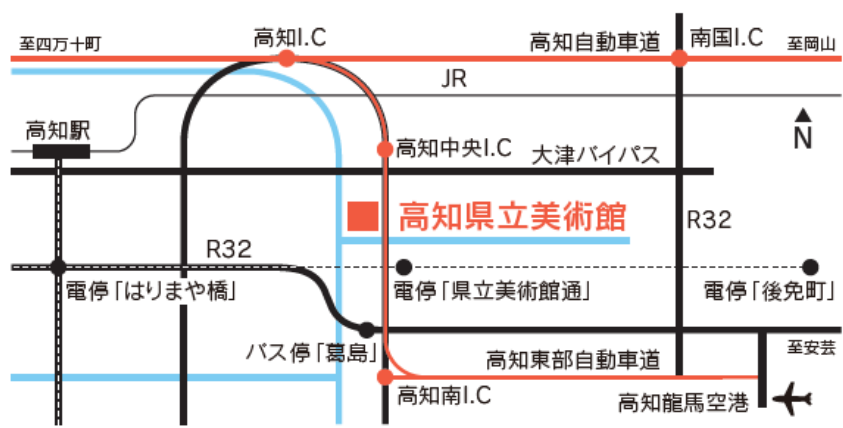
ここでは、絵本作家にとどまらない、ポスターデザイン、本の装丁などの多彩な仕事と、味わい深い和歌で綴られた自筆の書を紹介します。

※作品画像は全て、©空想工房 画像提供：津和野町立安野光雅美術館

■展覧会関連企画

1.	安野光雅美術館学芸員によるギャラリートーク ※予約制無料託児サービス有 日時：7月12日（土）10:00～11:00 集合場所：本展第1会場前 ※予約不要、要当日観覧券
2.	学芸員によるギャラリートーク ※8月24日のみ予約制無料託児サービス有 日時：8月24日（日）、9月4日（木）13:00-14:00 集合場所：本展第1会場前 ※予約不要、要当日観覧券
3.	ベビーフレンドリーアワー 主に0～2歳児と保護者が気兼ねなく、安心して鑑賞できるよう配慮した時間です。時間内いつでもお越しください。10:30と11:30より参加自由のミニギャラリートーク有り。 日時：7月17日（木）・8月21日（木）両日とも9:00～12:00 ※要予約、要当日観覧券 定員：各回5組（きょうだい児も参加可） 申込：お電話（088-866-8000）か申込フォームにて開催前日まで
4.	予約制無料託児サービス 日時：7月12日（土）、8月24日（日） 各日9:30～12:00／12:30～15:00 定員：各回10名 料金：無料（要観覧券） 対象：本展を鑑賞される方のご家族で、生後6ヶ月から就学前のお子さま 申込方法：お電話で仮予約の上、申込書を開催7日前までにお送りください。
5.	展覧会コラボメニュー 本展覧会にあわせ、当館1階ミュージアムカフェ・マルクにて、安野光雅さんの世界を表現したスペシャルメニューを数量限定でご提供します。
6.	関連図書展示 本展覧会会期中、下記施設で安野光雅さんの関連図書を展示します。 ・オーテピア高知図書館2階 こどもコーナー ・高知こどもの図書館 ・高知 蔦屋書店3階（こどもの図書コーナー）

■開催概要

主催	高知県立美術館（公益財団法人高知県文化財団）、KSS さんさんテレビ
会期・開館時間	2025（令和 7）年 7 月 12 日（土）～9 月 7 日（日）会期中無休 9：00～17：00（入場は 16：30 まで）
観覧料	一般前売 1120 円、一般当日 1400 円（1120 円）、大学生 950 円（760 円）、高校生以下無料 【前売券販売所（予定）】県立美術館ミュージアムショップ、金高堂書店本店、サニーマート（毎日屋、一部店舗を除く）、こうち生活協同組合（コープよしだ、コープかもべ）、県庁生協売店、ローソンチケット（Lコード：62024） （ ）内は 20 名以上の団体料金／年間観覧券所持者は無料／身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳及び被爆者健康手帳所持者とその介護者（1 名）、高知県及び高知市長寿手帳所持者は無料
会場	高知県立美術館 〒781-8123 高知県高知市高須 353-2
後援（予定）	高知県教育委員会、高知市教育委員会、高知新聞社、NHK 高知放送局、KCB 高知ケーブルテレビ、エフエム高知、高知シティ FM 放送
協力	認定 NPO 法人 高知こどもの図書館
企画協力	津和野町立安野光雅美術館、株式会社アートワン
交通案内	〒781-8123 高知県高知市高須 353-2 とさでん交通路面電車電停「はりまや橋」から「ごめん」「領石通」または「文殊通」行で 15 分、電停「県立美術館通」下車徒歩 5 分。 

■広報用画像

- ・ トリミング、文字のせ等の画像の改変は不可です。
- ・ 各キャプションの明記をお願いいたします。複数点掲載の場合は記事内の 1 ヶ所、作品全体にかかるように記載ください。また、正式な展覧会名と会期の表記をお願いいたします。
- ・ 二次利用の無いようご利用後のデータ削除を徹底し、画像の取り扱いには十分ご注意ください。
- ・ レイアウト原稿を事前に当館まで御提出いただき、1 週間程度お時間を頂戴いたします。
- ・ 掲載記事や VTR は展覧会開催の資料として保存しますので、3 部ご恵与ください。

1	 『かげぼうし』より 1976 年 ©空想工房 画像提供：津和野町立安野光雅美術館	外国の童話に着想を得て安野先生が生み出した創作物語『かげぼうし』。水彩で描かれた「光の国」と、切り絵で表現された「影の国」のふたつの世界が並行して展開します。「みはりばん」がとおめがねで見張る先には、良く知った物語の“おんなのこ”。技法の異なる世界で描き分けられたお話が、本の最後に、ひとつのお話へとつながります。
2	 「7」『かぞえてみよう』より 1975 年 ©空想工房 画像提供：津和野町立安野光雅美術館	はじめて数に出合う子どものための絵本として、田園生活が独特な手法で描かれています。シーンが進むにつれ、家や木や動物の数も増えてゆき、それに合わせて季節も色彩豊かに移ろいます。
3	 「ふしぎなりのり」『はじめてであう すうがくの絵本1』より 1982 年 ©空想工房 画像提供：津和野町立安野光雅美術館	数式や記号ではなく、身近なものをとおして、自分で発見・創造する事を楽しむ絵本。主役は、何でもくつつく魔法のくすりを発明したこびとくん。日常語でも使われる「かける」という言葉の概念を、愛くるしいこびとや動物たちの表情やしぐさをとおして楽しく学びながら、自分で考える事の大切さも体験できる内容です。

4	 『もりのえほん』より 1977 年 ©空想工房 画像提供：津和野町立安野光雅美術館	ヨーロッパ旅行の山でのスケッチをもとに描かれた何気ない森の風景ですが、目を凝らすと、隠し絵（だまし絵）のように、緻密で巧みな線描でたくさんの動物が潜んでいることに気づくでしょう。森の中に隠された生きものを探していくうちに、森のたたえる雰囲気や、息をひそめる動物たちの気配もかんじられるでしょう。
5	 『蚤の市』より 1983 年 ©空想工房 画像提供：津和野町立安野光雅美術館	ぎっしりと描かれているのは、世界の国々の古道具があつまるフリーマーケット・蚤の市です。長い時間を経てきた古いものひとつひとつに安野のあたたかな眼差しが感じられます。人々の様子に目を移すと、がやがやとした雑踏や人々の会話まで聞こえてくるようで、絵の細部を追うと自然と物語が生まれてきます。
6	 『天動説の絵本—てんがうごいていたころのはなし—』より 1979 年 ©空想工房 画像提供：津和野町立安野光雅美術館	遠い昔の人たちが疑いなく信じていた“天動説”から絵本は始まり、年月を経ながら“地動説”を知った人びとの驚きと悲しみを描いています。淡々と展開する物語に、風合いのある画面からは、古の物語の演出を感じます。中世の写本をイメージさせる細密画が画面を囲みます。
7	 「オオカミとサギ」『きつねがひろったイソップものがたり 1』より 1987 年 ©空想工房 画像提供：津和野町立安野光雅美術館	子ギツネが拾ってきたイソップ物語の絵本を、とうさんキツネに読んでとせがみます。文字が読めないとうさんキツネは、絵をみて好き勝手に空想したストーリーで読み聞かせるという、一風変わった構成のお話。既成の枠にとらわれず、想像することの楽しみを伝える、安野光雅のユーモアあふれる絵本。

8		展覧会メインビジュアル①
9		展覧会メインビジュアル②

■取材・広報問合せ先：

高知県立美術館 展覧会企画担当（学芸課）

tel：088-866-8000／fax：088-866-8008

茂木恵美子 emiko_mogi@kochi-bunkazaidan.or.jp

中谷 有里 yuri_nakatani@kochi-bunkazaidan.or.jp